現在形の歴史

なるへそ新聞販路拡大

思い出はニュースだ

西成なるへそ新聞社(大阪市西成区)は三月末同紙の創刊を発表した。西成区で芸術活動を展開するプレーカー・プロジェクトとの共同企画によって生まれたこの独創的な新聞は、地域に住む人々の記憶を頼りに「西成の今昔」を新聞紙上に街の風景として再現して行く。一つ一つの記事は紙面上にある家や区画の様に扱われ、街の変化同様、新しい記事を入れる際には古い記事を切り取って取り壊し、少しずつ時間をかけて記事が差し変わって行くというユニークな形式だ。人が人に話を聴き、手作りで進していく「手書き」の新聞。個人的な思い出話を、それが何年前のものでも新聞記事として現在の事のように扱うことで新旧の家々やそこに住む人々の記憶が入れ子の様に混在するリアルな都市の姿をこの新聞は体現すると、同紙編集長山田亘氏は語る。同社は一般参加の記者を公募中。参加する記者達の取材の過程そのものが人から人への歴史の伝達とともなっていく。

なるへそ記者

「西成なるへそ新聞」は新規の記者を広く募集している。忘れる事の出来ない大きな戦争体験ですら徐々に個人のディティールを失って単なる「歴史の一ページ」となって行く現在、この街に住む人々の生きて来た記憶が気づかない内に消えていってしまう前に、出来るだけ多くの方々から「暮らしの体験談」を聞き出していただきたいと同社広報の村田仁氏は語る。時空間を超えて街の移り変わりの姿を一緒に作っていく「なるへそ記者」には報酬脱章とメモ帳が支給される。年間を通しての参加から、数回や一回限りでの参加も可能だ。

発行:西成なるへそ新聞社
ブレーカープロジェクト実行委員会
発行人:山田亘
編集:ブレーカープロジェクト実行委員会 村田仁
山田亘
印刷:村田仁

壁新聞設置

約六、七所

なるへそ新聞社(大阪市西成区)はこのほど「なるへそ壁新聞」を山王及び太子を中心に店舗前や商店街の壁スペース等約六、七カ所に設置する。今回の設置は新聞の存在を知っていただくためのもので、三月に発行された第一号をA1サイズのポスターに復刻したものが貼り出される。雨の季節に撥水加工の必要等も叫ばれているが、大きくなった新聞に目を留めて頂ければと期待がふくらんでいる。

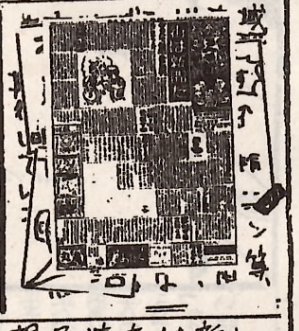
おふろで実感

ロングピースダイエット成功

山王の飲食店経営足立眞美さん(26)が八十キロから三十三キロのダイエットに成功した。伊達こきでならした足立さんは若い頃は興様との初デートではナイフとフォークでのお酒落な洋食屋にスリムな体によく似合うおしゃれな茶紺のブレザーでキメていたという。その際、デートのために新調したブレザーの背中に糸どめがそのままになっていたのを見て興様が「可愛らしい」と感じたのがなれそめとか。その後興様の妊娠を機に酒や煙草を一切やめたことから三十キロの激太り。これはヤバいと結局わかばやロングピースに再び手を出す事となった。徐々にやせて行ったので実感はなかったが、最近新世界の風呂屋に行った際、風呂の真ん中に座るのが好きだった足立さんはお湯の波で自分の体が動いているのに気づき「ああ、やせたなあ」と実感している。

新築の進歩と調和

外装工事を終えた物件を仰ぎ見て永岡芳弘さん(31)は感慨深げだ。父が興した工務店を兄弟と二人で継いで三年、設計施工を一貫して任された何軒目かの新築住宅。二階建てが軒を連ねる北門通りの中でもその家のニ階壁面は目を引いた。幅五間、8mにわたり石垣のように傾斜した壁が屋根を支えている。それは先年開催された万国博覧会のパビリオン・ソ連館に想を得たものであった。100mを超す主柱と山嶺のごとくそびえる紅い壁。その威容に万国博覧会を訪れた永岡さんは圧倒された。「このド迫力を自分の建築でも表現したい。L そんな思いをこの新築住宅に込めた。色は無難な茶系に抑えたため、すぐにソ連館を連想する人はいないだろう。実は施主にも発想の源までは伝えていない、それでも今の自分の思いが詰まっており、芳弘さんには、これが後々まで忘れられない物件になりそうな予感がしていた。



いつ行くの?

~水のいいおふろ~

今池湯従業員サブローさん(54)は、ご主人さんから運営全般をまかされ、八人の部下とともに働く。勤務は朝四時から午前二時までと受験生並み。ご主人のご子息が医学の道に進まれたこともあり、サブローさんに対する期待は大きい。前職が、原子力発電所の設備技け銭湯に皆さん【今!行け(池)でしょう】

西成くん

作・ムラタツシ

人生忌将七転八起

この熟語の解説は昔と現代では全く異った時代感覚になっている。昔の時代は七回転んでも八回起きて成功し晩成型成功者ありという様に一生涯人生は希望を失わずに努力するべきことを教えている。現代の七転は職の移動によって転勤することの多い困難時代に際して人生に希望を失わぬ様、活路を見出して行く努力をおしまない様に生きる事です。地球の生命体系は一個のみでは生きる事の不可能も示している。人類は何度も新しい生命体との連系を模索して生きのびてきており、今後もこれらの点を充分に認識して七転しすとも失望する事もなく発起して地球と共に生命体系維持するべき事を知るべきと示していると言わねばならないでしょう。

松葉史太郎

風車
発行 黒田信子
定価 百円

今池湯
太子2丁目1-11

kioku no yakatakan
たんす
お家のタンスに眠っている
編み物を織って下さい。
山王1-11-5(元・鈴木タンス向)

全酒類 食品販売
BEER WHINE BRANDY SAKE
柳本商店
山王1丁目12番4号

大阪市現代芸術創造事業
ex・pots 2011-2013
Breaker Project
山王・飛田・太子・新世界
地域密着型アートプロジェクト
http://breakerproject.net